

# PCC イブニングセッションの企画と運営

## - iPad による PDF 型デジタル教科書体験会を企画して -

田中 雅章\*1・神田 あづさ\*2・大森 晃\*3・金森 正晃\*4・草薙 仁\*4・名和 輝明\*5

Email: m\_tanaka@jc-humanitec.ac.jp

- \*1: ユマニテク短期大学
- \*2: 仙台白百合女子大学 人間学部
- \*3: 東京理科大学
- \*4: 丸善雄松堂株式会社
- \*5: 京セラコミュニケーションシステム株式会社

◎Key Words Chromebook, デジタル教科書, チュートリアル, 企画運営

### 1. はじめに

筆者が所属する学園の看護系専門学校では、平成 27 年度よりデジタル教科書を導入した。50 冊の内 39 冊がデジタル教科書という本格的な導入である。デジタル教科書のために使用するデバイスは iPad mini2 32GB である。平成 27 年度に 81 人の利用者でスタートし、平成 28 年度はさらに 78 名の利用者が加わった。

デジタル教科書の特徴や運用方法は、時間的に限られた学会発表だけではその雰囲気は伝わりにくいと思っていた。そこで、イブニングセッションでデジタル教科書体験を企画すれば、少しでも PC カンファレンスの参加者の利益になるのではないかと考えた。

そこで、デジタル教科書を導入したスタッフで、イブニングセッションの発案から 1 年をかけて準備を重ね、イブニングセッションを具現化することができた。2016PCC ではイブニングセッションを成功裏に終了することができた。これを受け、本稿ではこの発案から企画、実施、参加者アンケートの分析までを報告する。

### 2. イブニングセッションの意義

PC カンファレンスで行われているイブニングセッションの意義を考察する。イブニングセッションの様な、実施主催者の自主性に任された研究セッションは他の全国大会でも実施している例がある。事前に実施計画書による事前審査はあるため、学会から許可された範囲で行う制約はある。しかし、自主企画型のセッションを主催する目的や方法については、主催者の自主性に任されているのでその内容の自由度はかなり高いと言える。

筆者らは過去、イブニングセッションに参加したことがある。他のイブニングセッションに参加した経験に基づき、参加者の目線に立って振り返ってみる。参加して、「ためになった」、「良かった」と思えるイブニングセッションがあった。それに対して、期待外れのイブニングセッションもあった。満足できたイブニングセッションは、主催者の周到なる準備と参加型はプログラムが良く考えられていた。期待外れのイブニングセッションは、資料が不足している。あるいは、頭の中だけで検討したと思われ、事前に運営シミュレー

ションが行われていなかったように感じた。また参加したいと感じるか、もう二度と参加するものかと感じるか、のどちらかになると思う。

著者らは研究成果を発表する場として、また自ら勉強する場として大会や研究会に運営に参加することで、研究会運営などの経験を蓄積してきた。この様な自主企画型のセッションは共同研究者を募る方法として、また志を同じくする仲間を増やす方法として大変効果的で有効な方法であると言える。また、通常の口頭発表ではどうしても伝わらないことがあっても、実機を提供し操作を体験してもらうことで最新技術をより深く理解してもらう機会を設けることもできた。

今回、イブニングセッションを主催する立場で振り返ってみる。イブニングセッションを行うための機材の手配、企画や準備そのものはかなりの負荷となり大変であった。しかし、自分たちの取り組みや研究を他人に理解してもらうには大変有効的な方法であると評価する。また、イブニングセッションを企画、運営した経験は、大学において卒業研究発表会やその他のイベントで学生に運営指導をする時に大変に役立つと思われた。

### 3. イブニングセッションの企画と運営

今回のイブニングセッションの企画は 1 年前の 2015 年 4 月から始まった。この年はデジタル教科書を本格導入したばかりで、デジタル教科書を円滑に運用することが命題だった。まだ、デジタル教科書の運用ノウハウも運用データもなかったため、学会発表するためにはまだデータが不足していた。

それでも、デジタル教科書化を推進してくれた書店担当者やデジタル教科書を管理する担当者とイブニングセッションの企画を提案した。PCC のイブニングセッションに関する資料提供と、企画案を見せたところ協力担当者全員が賛同してくれた。2016 年 2 月には、協力担当者の次年度計画の社内稟議を通すために、イブニングセッションに関する資料提供と企画書案を作成し、提供した。協力担当者の社内の内諾が取れたことを確認した上で、イブニングセッション企画の応募案を作成した。協力担当者の確認を取った上で、3 月末までに学会へイブニングセッションの企画を応募した。

学会から4月10日にイブニングセッションの採否する旨の通知があった。その後、イブニングセッション会場の実施環境について、事務局とメールで確認作業を行った。イブニングセッションの具体的な準備作業に入れたのは、実施する1か月前になってからである。

イブニングセッションのプログラムは、次のとおりである。

1. デジタル教科書の導入説明
2. デジタル教科書の仕組み解説
3. デジタル教科書の利用体験

イブニングセッションの持ち時間が、1時間30分と限られている。この時間内に全てのプログラムが終了するように計画した。しかし、予想以上に質疑応答に時間がかかってしまった。そのため、予定した終了時刻に終わることができなかつたのが、反省点である。

#### 4. イブニングセッションの評価と反省

今回のイブニングセッションの参加者から回収したアンケートの有効回答者数は28名である。質問項目は、イブニングセッションに関する評価とデジタル教科書で体験を希望する内容である。

表1 イブニングセッションの運営 n=28

内容	結果
満足	17名(60.7%)
やや満足	11名(39.3%)
やや不満	0名(0.0%)
不満	0名(0.0%)

イブニングセッションに関する評価をまとめる。イブニングセッションの運営に対する評価を表1に示す。「満足」が17名(60.7%)である。「やや満足」が11名(39.3%)である。「やや不満」「不満」ともに0名(0.0%)である。これはiPadを持ち込んで、デジタル教科書を体験できる内容がメインであったこと。デジタル教科書の導入事例、デジタル教科書の仕組みの説明、3つ試みでのデジタル教科書を理解してもらるように工夫したことが良かったように思う。ただ、デジタル教科書利用者ログについて、詳しく知りたかったという意見があった。

表2 デジタル教科書の体験 n=28

内容	結果
満足	18名(64.3%)
やや満足	9名(32.1%)
やや不満	1名(3.6%)
不満	0名(0.0%)

次に、デジタル教科書の体験に関する評価を表2に示す。「満足」が18名(64.3%)である。「やや満足」が9名(32.1%)である。「やや不満」が1名(3.6%)である。「不満」が0名(0.0%)である。これは、これはiPadを持ち込んで、デジタル教科書が体験できるように配慮はした。そのためにiPadを20台準備したが、予想以上に申し込みがあった。さらに当日参加者が8名いたためにiPadの台数が不足し、参加者同士が共有で使ってもらったことが、やや不満になったものと思われる。これは、iPadの制限であるが、文字認識がやや遅いことと、筆記文字を入力文字へ自動認識してほしいとの意見が

あった。

表3 デジタル教科書で希望体験 n=28

内容	結果
デジタル教科書を使った講義事例	12名(42.9%)
デジタル教科書を使った講義体験	9名(32.1%)
デジタル教科書利用者の感想・意見	8名(28.6%)
デジタル教科書の運用事例	6名(21.4%)
講義資料登録の操作体験	6名(21.4%)
端末、無線などインフラ面の事例	6名(21.4%)

※複数回答

デジタル教科書で体験したい内容に関する結果を表3に示す。「デジタル教科書を使った講義事例」が12名(42.9%)である。「デジタル教科書を使った講義体験」が9名(32.1%)である。「デジタル教科書利用者の感想・意見」が8名(28.6%)である。以下、「デジタル教科書の運用事例」、「講義資料登録の操作体験」、「端末、無線などインフラ面の事例」が、どれも6名(21.4%)である。

イブニングセッションの参加者は、デジタル教科書の仕組みや使い方が理解できたと思われる。次に知りたい内容は、デジタル教科書をどのように使っているのか事例を知りたいのだろう。それが、講義事例や講義体験を希望する数字として表れた。それだけ、デジタル教科書に対して関心が高い証拠であると言える。

#### 5. まとめ

デジタル教科書を導入してから3年目になり、全在生はデジタル教科書で授業を受けている。デジタル教科書導入1年目は、デジタル教科書を本格運用することで運用ノウハウが蓄積できた。その結果、80%以上の学生はデジタル化の推進を希望した。2年目は、教材のデジタル化に取り組んだ。デジタル教材を70%以上の学生は良いと評価した。

これらの経験に基づきデジタル教科書を提供するプラットフォームが体験できる機会をもうけ、学会員の少しでも役立てばと思った。2016PCCのイブニングセッションを実際に企画した。この時の参加者の意見を反映して、今回は「iPadによるデジタル教科書活用体験会」を再企画した。さらに前回の参加者の要望から、デジタル教科書体験用のiPadを20台から40台に増やした。

デジタル教科書未経験者にデジタル教科書の内容を知ってもらい、デジタル教科書を体験してもらうことで、参加者が本務校に戻り、今後の情報教育の一助になれば幸いである。黎明期の教育技術を理解してもらうことは、運営側にとっては準備が大変である。しかし、参加者が満足している結果を見る限り、体験型イブニングセッションを企画してとても良かったと思う。

#### 参考文献

- (1) 京セラコミュニケーションシステム,電子書籍配信サービス, <http://www.kccs.co.jp/ict/cloud-booklooper/> (2017.1.22)